

明治の上野公園界隈

児玉 寛嗣

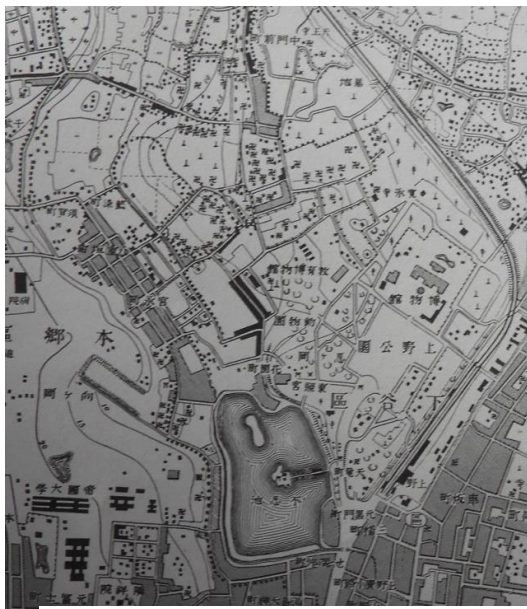
古地図（明治三十年頃）をもとに当時の光景を想像しながら上野公園界隈を散策した。自宅から上野公園に向かって進むには、まず谷中墓地を目指す。墓地の手前には天王寺という寺がある。明治初期に政府は天王寺の境内の大半を接収し、公共墓地として開設したという。それが谷中墓地だ。寺側は境内を削られてどんな思いだったのだろうか。墓地には大正時代になって徳川慶喜の墓所ができる。

さらに進むとお寺が並んでおり寺町の様相を呈している。今では数えるほどしか残っていない。やがて鬱蒼とした森に入った。樹々の間から教育博物館が見えてきた。この博物館は後に移転して科学博物館となる。隣には奏楽堂がある。今の東京藝術大学の辺りだ。

その奥に動物園。左手には博物館（現・東京国立博物館）があるがそこに西洋建築（表慶館）はまだない。右に曲がると上野公園だ。

公園を抜けると左側には瀟洒な煉瓦造りの上野駅の駅舎。東北方面からの終着駅で東京方面への線路はない。駅前には多くの店が立ち並んでいる。右前方の小高い丘には新築の岩崎久弥の西洋風の邸宅がある。（現・旧岩崎邸庭園）

右側には不忍池、池の向うは広い原っぱだ。遠くには東大の建物が見える。（地図の表示は帝國大學）



明治 30 年頃の上野公園界隈

漱石の「三四郎」に「坂の向うにある理科大（中略）。その屋根の後ろに朝日を受けた上野の森が遠く輝いている。（中略）三四郎はこの奥行のある景色を愉快に感じた」というくだりがある。漱石も大学から森を眺めたのであろう。池の周囲は競馬場になっている。それを迂回し本郷側に出る。今の不忍通りだ。目の前の広い空き地の一郭に横山大観が邸宅を建てたのは明治末期だった。現在は横山大観記念館。やがて、家並が見えてきた。右手の奥に寺々の屋根が顔を出す。さらに進むと家並も途切れ、やや奥まったところに根津神社がある。その先は田畑の広がる光景だ。東の間のタイムスリップを楽しんだ。